

## テニュアトラック普及・定着事業 (実施期間：平成 23 年～平成 30 年度)

実施部局：信州大学 総合医理工学研究科（総括責任者：濱田 州博）

### (1) 評価結果

総合評価	制度設計・ 組織体制	実績・目標達成度 (具体的方策、成果等を含めて)			補助事業期間 終了後の継続 性
		部局の実績	公募・選考・ 採用、中間審 査、自立的研 究環境の整備 及びテニュア 審査	採用されたテ ニュアトラッ ク教員の研究 成果・実績	
A	a	a	a	a	a

総合評価：A (妥当である)

### (2) 評価コメント

「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業の経験を踏まえて、関連学系と連携して継続性のあるテニュアトラック制を展開しており、繊維学、農学、理学の3学系では新規の助教をテニュアトラック教員として採用する方針の下、本事業に自主的取組を合わせて基盤的人事制度と位置づけたテニュアトラック制を推進した。全教員が教員組織「学術研究院」の学系に所属する体制の中で、教員人事は一元的に運用され、学長が全学的にリーダーシップを発揮できる体制の下、テニュアトラック制が実施された。複数メンターによる支援等、組織的な進捗管理、テニュアトラック教員の育成体制が確立しており、積極的な制度の普及・定着が行われた。テニュアトラック教員は活発に研究活動を行い、その活動が部局での制度理解に繋がるとともに機関の研究活動活性化に寄与した。今までの実績を踏まえ、今後も制度を継続的に推進する計画であり、全学への制度の波及が期待できる。当該部局の取組は評価できる。

・**制度設計・組織体制**：全教員が「学術研究院」の学系に所属し、機関本部のガバナンスの下、一元化された教員人事の中にテニュアトラック制を取り入れ、繊維学、農学、理学の3学系で助教人事を原則テニュアトラック制としていることは評価できる。中間評価で指摘された人事選考については、機関外委員が直接参加することになり改善がなされた。

・**部局の実績**：本事業に加え、自主的取組でもほぼ同数のテニュアトラック教員の採用を行った。テニュアトラック経験教員や制度運用に関わる教員も多く、テニュアトラック教員の優れた研究活動が部局の研究活動活性化に寄与するとともに、全学、部局での制度理解を促し、制度が定着していることは評価できる。

・**公募・選考・採用、中間審査、自立的な研究環境の整備及びテニュア審査**：複数のメンターと全学のコーディネータによりケアされた自立的な育成環境の中で、テニュアトラック教員が教育経験、異分野交流も含めて、研究者として組織的に育成されたことは評価できる。メンターがテニュア審査に参加している事例については改善を期待する。

・**採用されたテニュアトラック教員の研究成果・実績**：テニュアトラック教員の多くが国際的な交流も含めて活発な研究活動を行い、中には高い研究発信力のある業績もみられ、優れた研究成果を挙げた。評価できる実績である。

・**補助事業期間終了後の継続性**：繊維学、農学、理学の3学系において全助教人事を原則テニュアトラック制によるものとして制度の継続的推進を計画していることは評価できる。教員組織「学術研究院」で一元化された人事の中で、今後、工系、医学系も含めて、制度の波及、継続的な実施が期待される。